

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2016 年 7-9 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲26 となり、2015 年 1-3 月期以来、6 期ぶりに改善した。

2016 年 10-12 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 31%で前回調査（2016 年 4-6 月期 37%）より 6 ポイント改善、「好転」とした企業は 5%で前回調査（5%）と同水準となった。景況判断 DI は▲26 となり、前回調査（▲32）より 6 ポイント改善した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2016 年 4-6 月期に対して、

- ・売上高 DI は▲5 で、11 ポイント改善
 - ・処理量 DI は▲9 で、5 ポイント改善
 - ・契約単価 DI は▲4 で、1 ポイント悪化
 - ・営業利益 DI は▲11 で、6 ポイント改善
 - ・資金繰り DI は▲4 で、2 ポイント改善
 - ・借入難易度 DI は 5 で、2 ポイント改善
 - ・設備投資 DI は▲7 で、1 ポイント改善
 - ・従業員数 DI は▲3 で、9 ポイント悪化
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲21 となり、5 ポイント改善する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 13.0%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 5.0%減となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.02%（前回調査 4.65%）となり、2015 年 4-6 月期以来、5 期ぶりに改善した。
- 経営上の問題点としては、「需要の停滞」22.5%（前回 22.9%）、「同業者相互の価格競争の激化」17.4%（前回 16.3%）と引き続き上位となった。「従業員の不足」13.8%（前回 11.0%）が前回の 4 位から 3 位に上昇し、労働力の不足感が強まっていることが伺える。

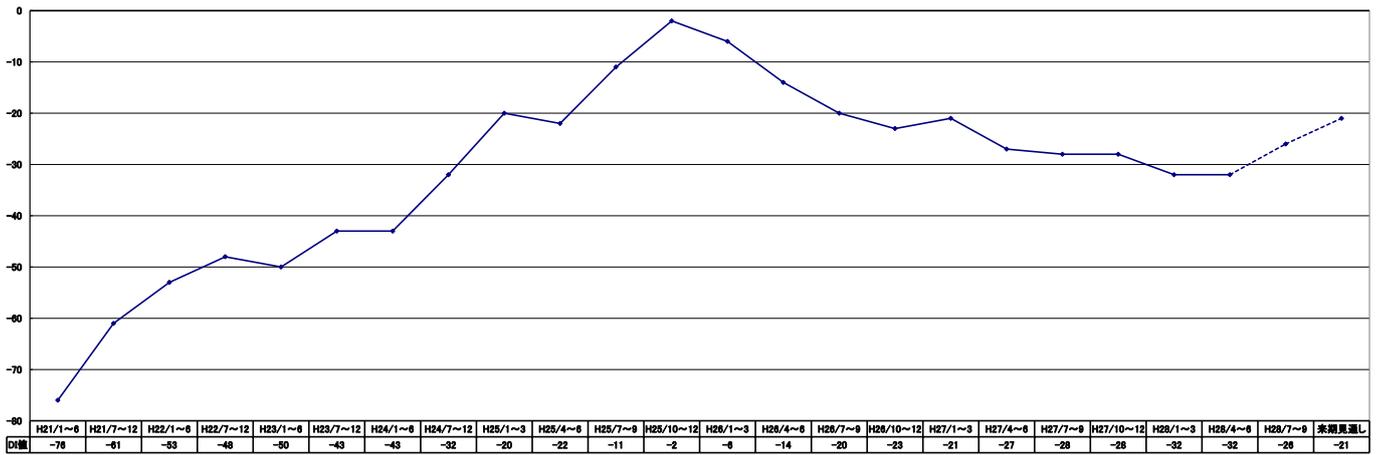
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

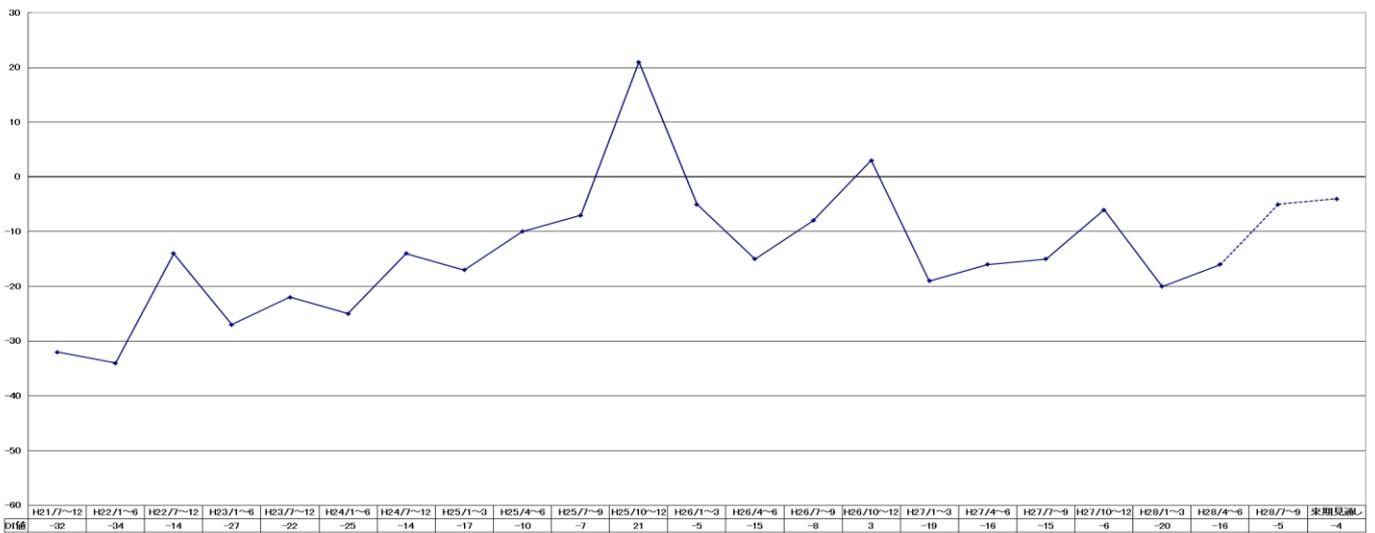
〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 28 年 10 月 4 日～11 月 11 日
- 回答企業数：368 社

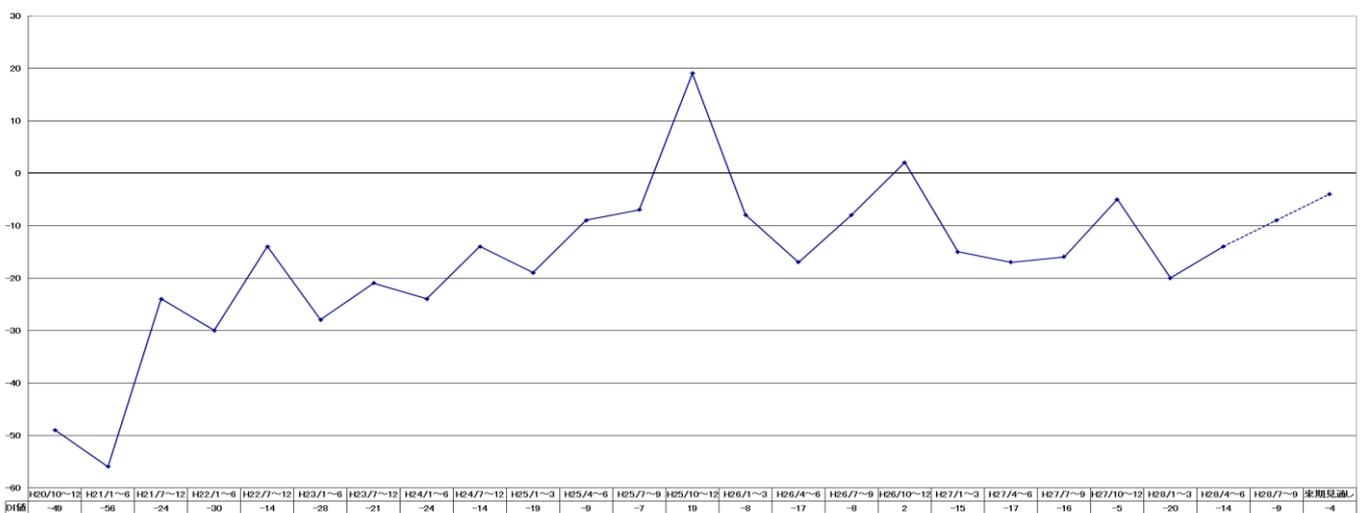
景況判断DI



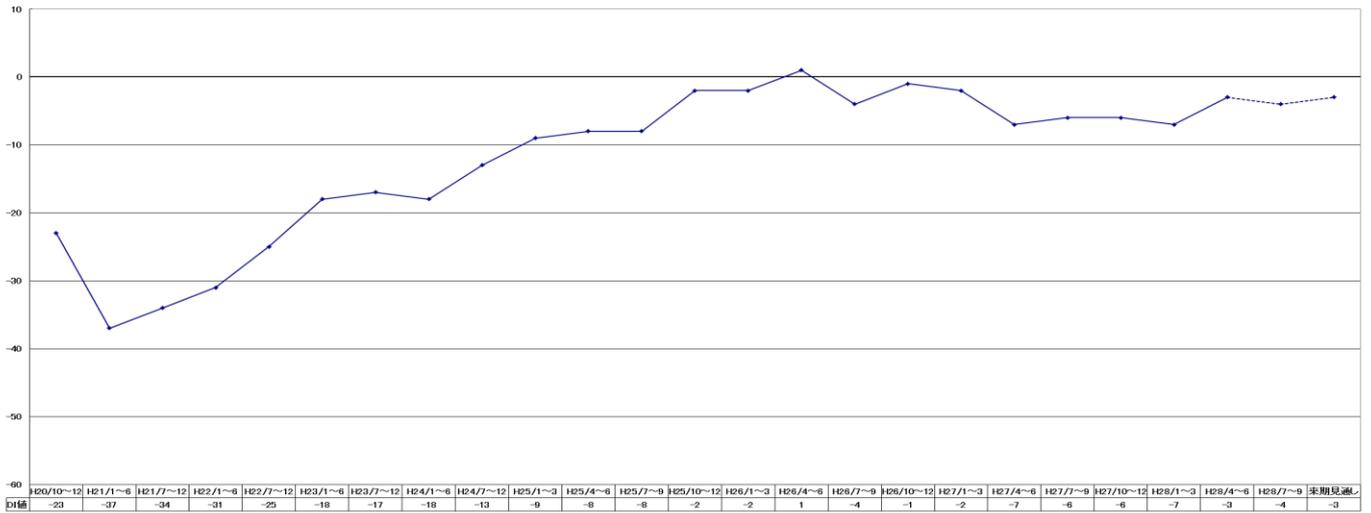
売上高DI



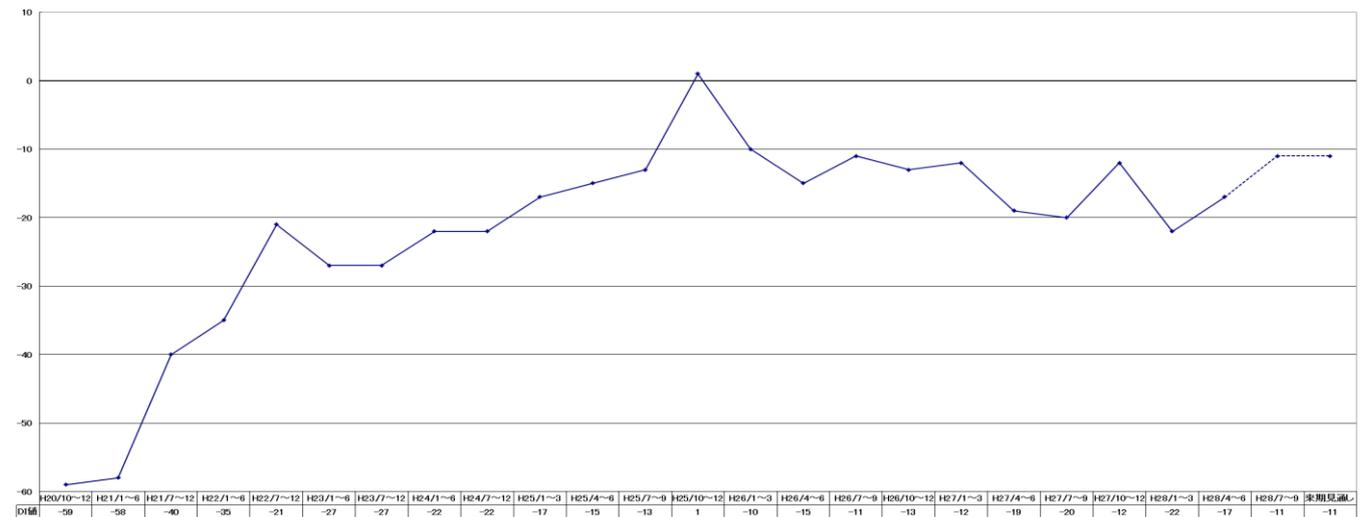
処理量DI



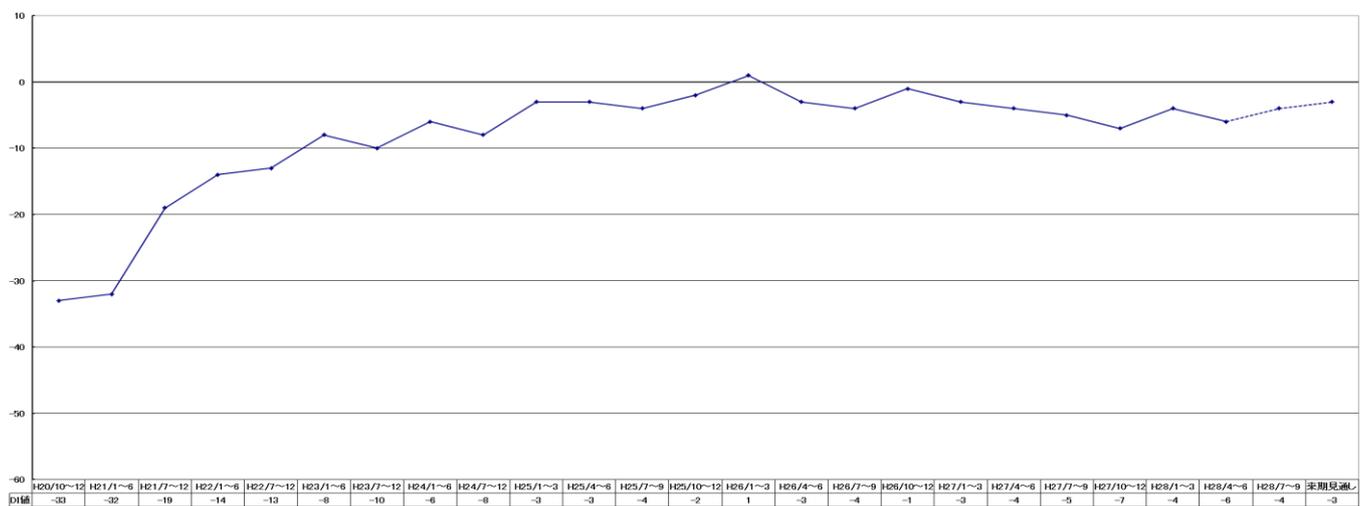
契約単価DI



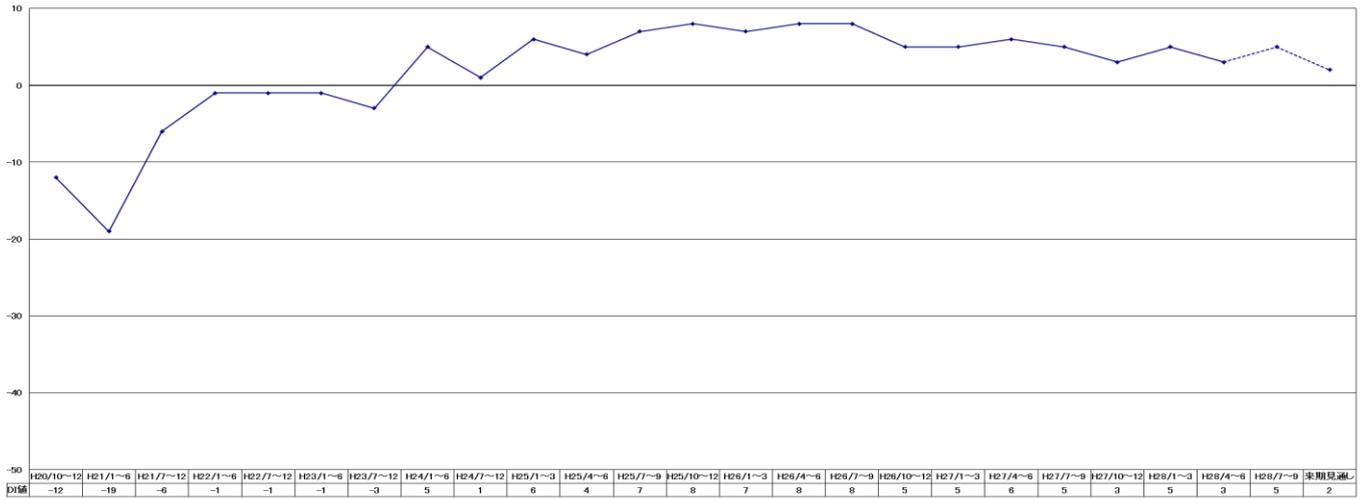
営業利益DI



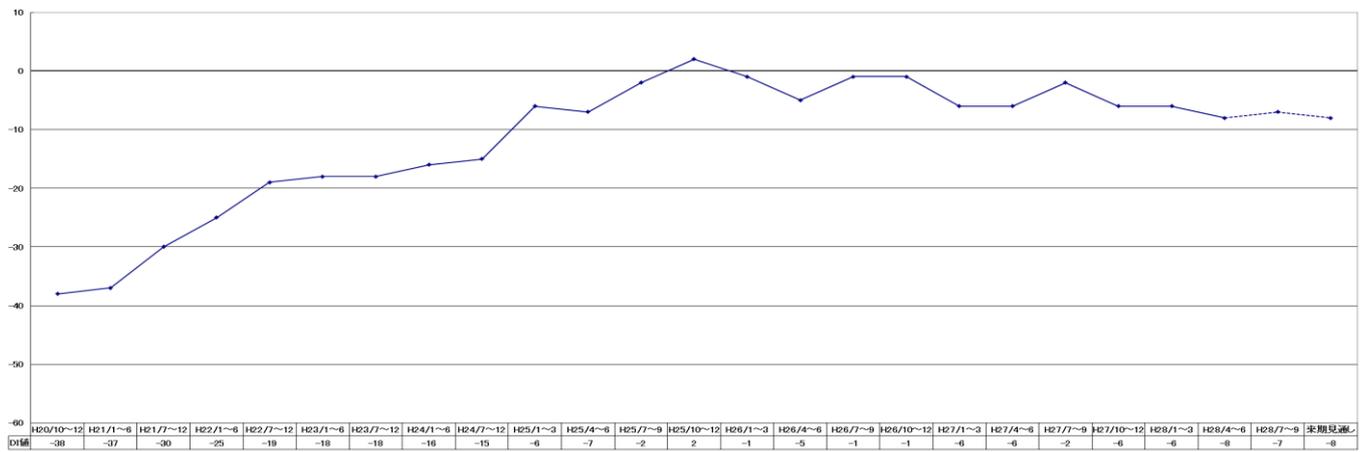
資金繰りDI



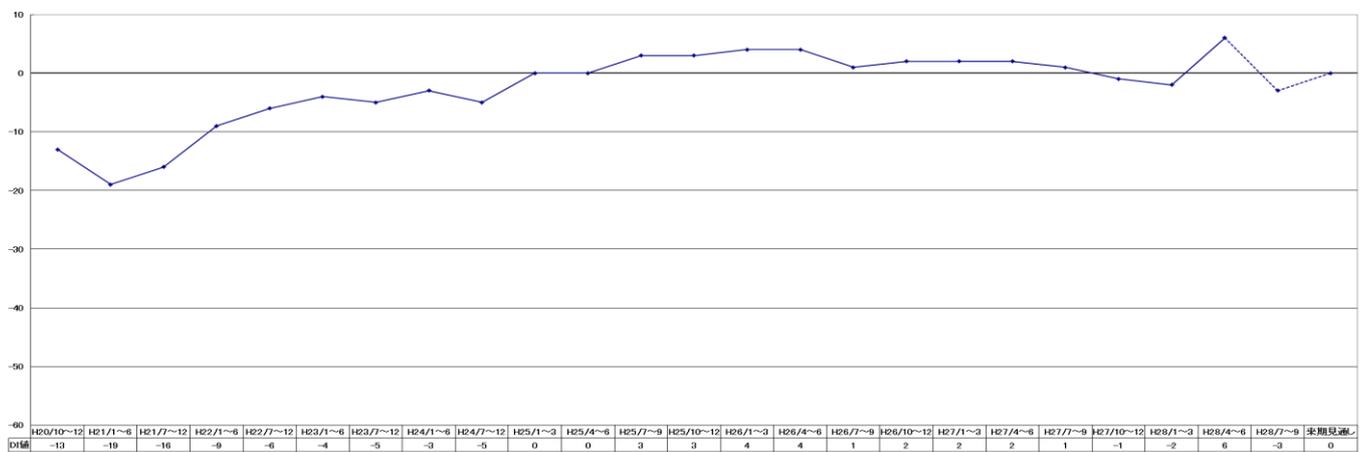
借入難易度DI



設備投資DI

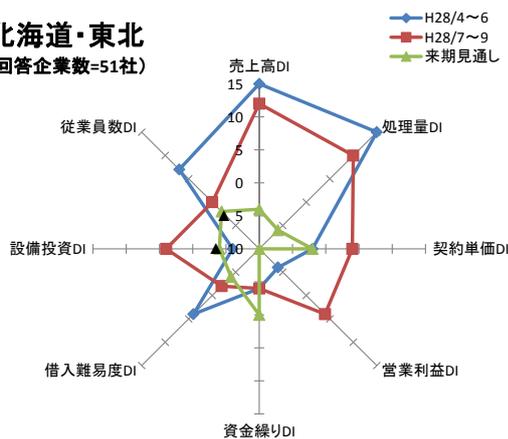


従業員数DI

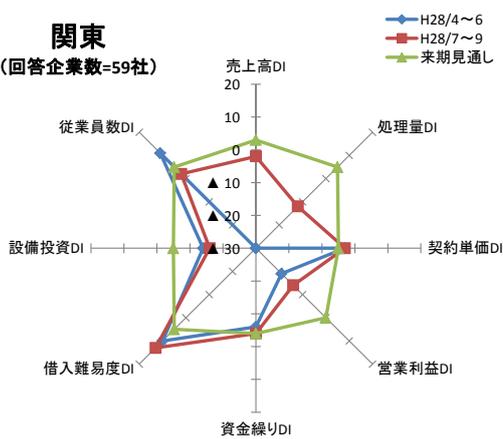


【地域別レーダーチャート】

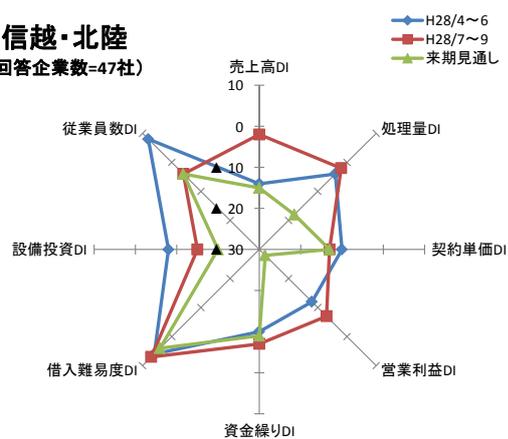
北海道・東北 (回答企業数=51社)



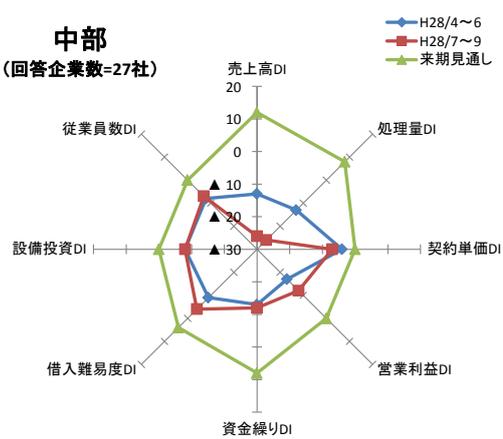
関東 (回答企業数=59社)



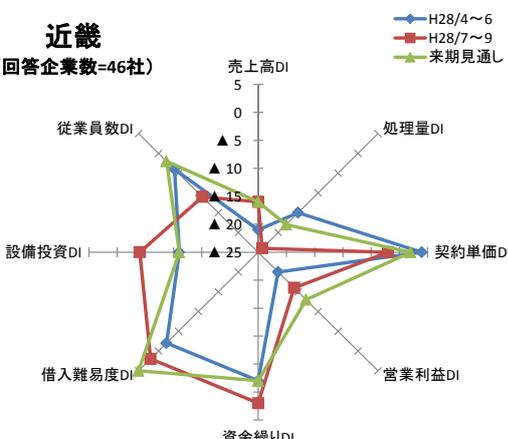
信越・北陸 (回答企業数=47社)



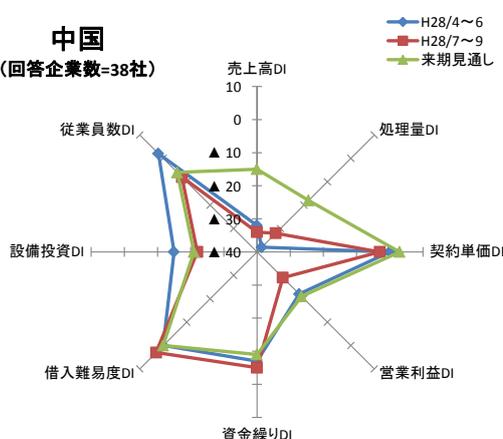
中部 (回答企業数=27社)



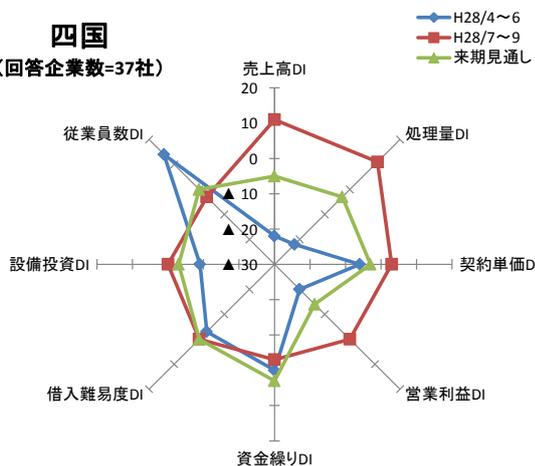
近畿 (回答企業数=46社)



中国 (回答企業数=38社)



四国 (回答企業数=37社)



九州・沖縄 (回答企業数=63社)

